

道路一8





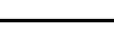
都市計画道路環状3号線
(南戸塚地区 外2)

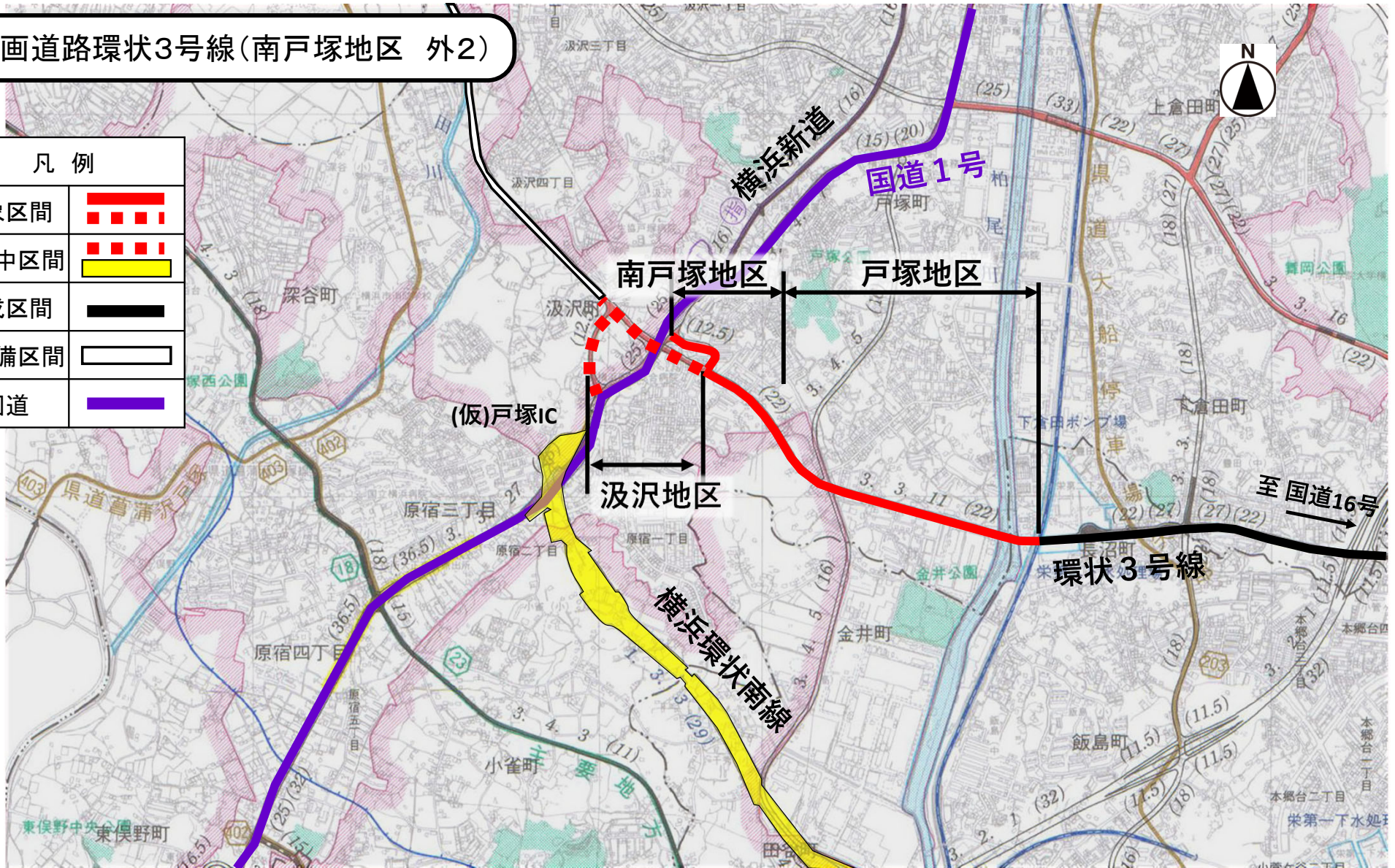
都市計画道路環状3号線(南戸塚地区 外2)



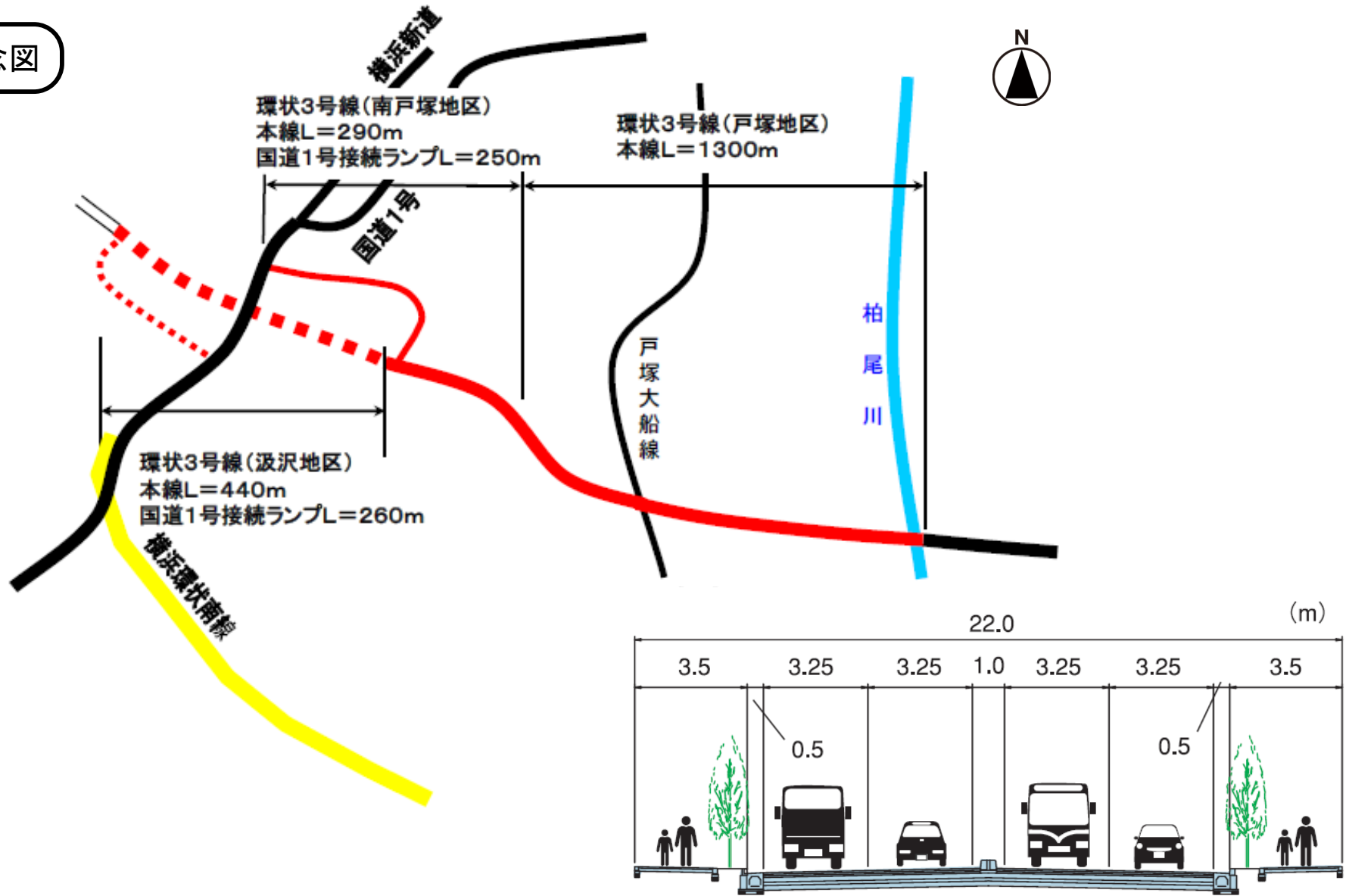
凡 例	
事業中	■
整備済	■
未整備	■

都市計画道路環状3号線(南戸塚地区 外2)

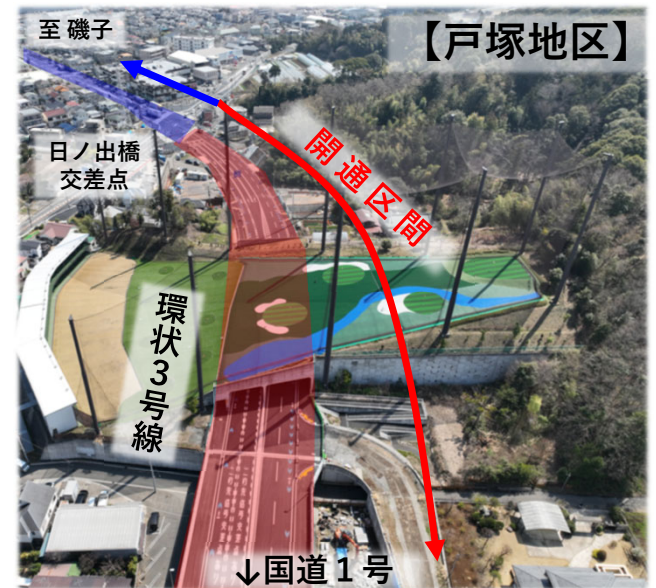
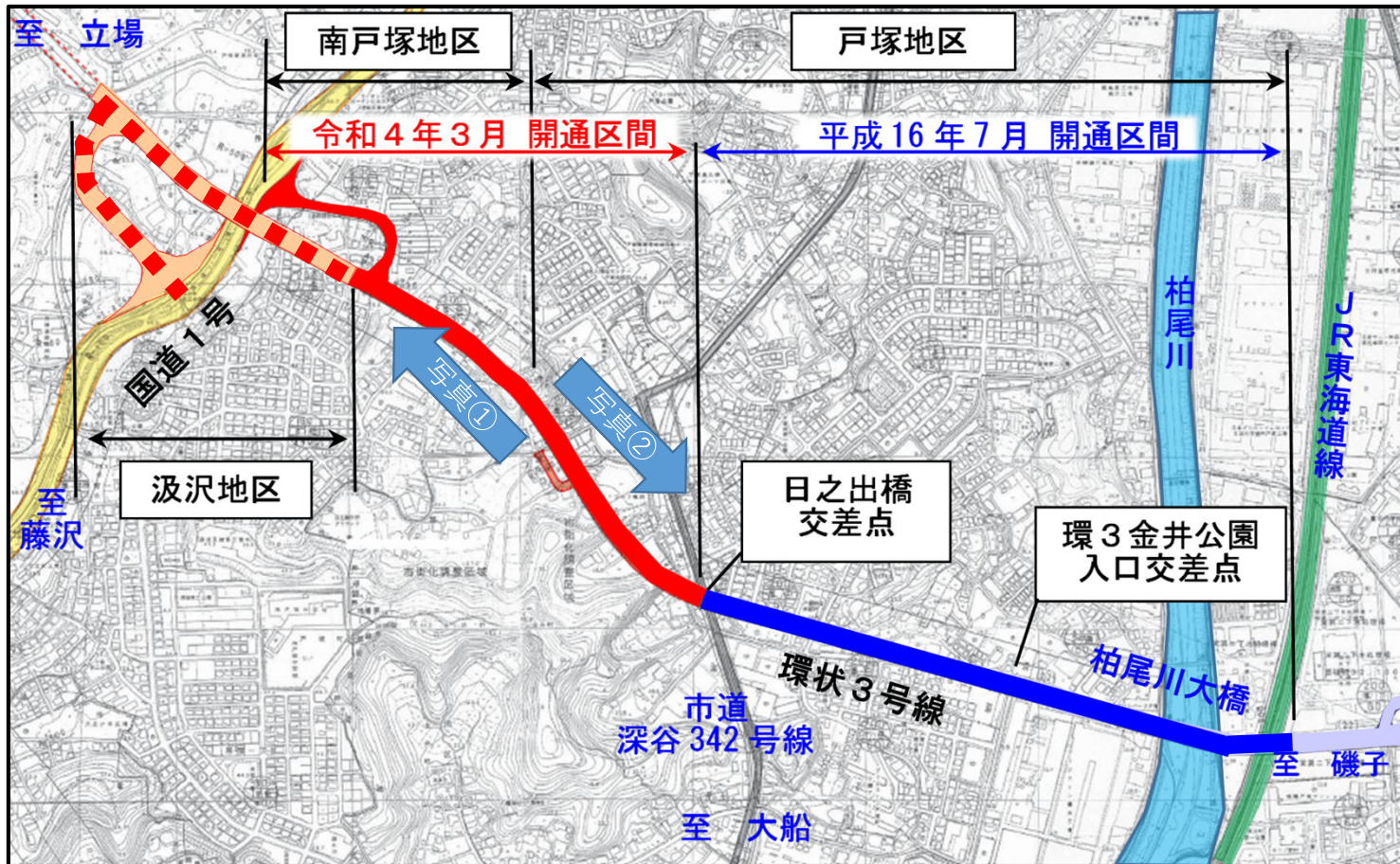
凡 例	
対象区間	
事業中区間	
完成区間	
未整備区間	
国道	



対象区間概念図



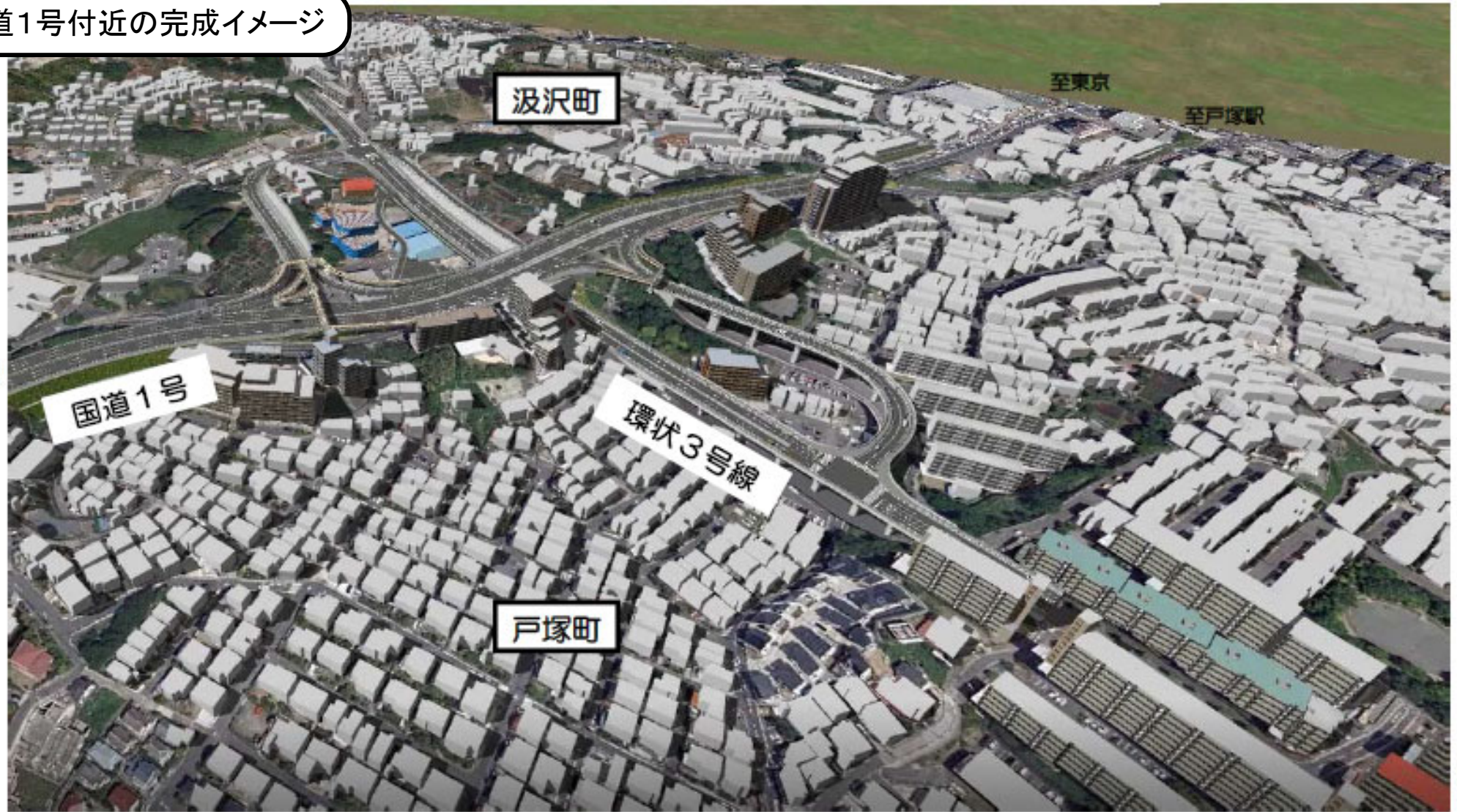
進捗状況(戸塚地区、南戸塚地区)



国道1号付近の計画・航空写真重ねイメージ



国道1号付近の完成イメージ



変更内容(事業期間及び事業費)

		当初(事業採択時)	前回(令和元年度)	変更(令和5年度)
事業期間		昭和62年度～平成27年度	平成62年度～令和8年度	昭和62年度～ 令和13年度
事業費	合計	23,455百万円	29,335百万円	41,704百万円
	国費	11,728百万円	14,668百万円	22,937百万円
	市費	11,727百万円	14,667百万円	18,767百万円

① 事業期間の変更：令和8年度 ⇒ 令和13年度

令和元年度の都市計画変更を受け進めている汲沢地区の用地交渉に時間を要していることから、事業期間を変更します。

② 事業費の変更：29,335百万円 ⇒ 41,704百万円

増額の内訳を次のスライドでご説明します。

事業費増額の内訳について

項	目	事業費増額の主な理由	増額
①	取付道路の追加	施工時の地元調整により必要となった環状3号線により分断された既存生活道路へのアクセス路の機能確保のための取付道路（連絡階段）築造に伴う増額。	約5億円
②	地盤改良等の追加	国道1号アンダーパス工事の施工計画にあわせた追加の地質調査による地盤改良等の見直しに伴う増額。	約34億円
③	構造の見直し	橋梁の耐震基準の改定により必要となった耐震対策に伴う増額。 詳細設計における追加の地質調査による擁壁等構造の見直しに伴う増額。	約50億円
④	建設資材・労務費等の高騰	建設資材の高騰や労務費の上昇、工事諸経費の上昇による増額。	約20億円
⑤	物件補償費等	建設資材及び労務費の高騰に伴う用地補償費用の増額。 物件補償の詳細な用地調査による補償内容の変更に伴う増額。 （一部を切取り・改造を想定していた物件について、全部撤去・構外移転補償が必要となった）	約15億円
		合計	約124億円

* 社会情勢等の変化により、今後金額が増減する可能性があります。

事業整備効果

	事業全体	残事業
割引率	4%	
総便益(B)	1,506億円	996億円
総費用(C)	654億円	120億円
費用便益比(B/C)	2.3	8.3
感度分析 [交通量-10%]	1.7	5.3

【定性的効果】

① 市南部地域と湘南方面の連絡の強化

環状3号線が国道1号に接続することにより、戸塚区・栄区・港南区など市南部地域と、藤沢・平塚など湘南方面の連絡を強化します。

② 周辺の住宅地域の安全性の向上

周辺の生活道路に入り込んでいた通過交通が環状3号線に転換することで、住宅地域の安全性が向上します。

③ 防災力の強化

国道16号と国道1号がつながることで、大規模災害時における復旧作業、物資輸送などのための道路ネットワークが充実し、地域防災力の強化が図られます。

事業の進捗状況

環状3号線（南戸塚地区 外2）

事業進捗率%

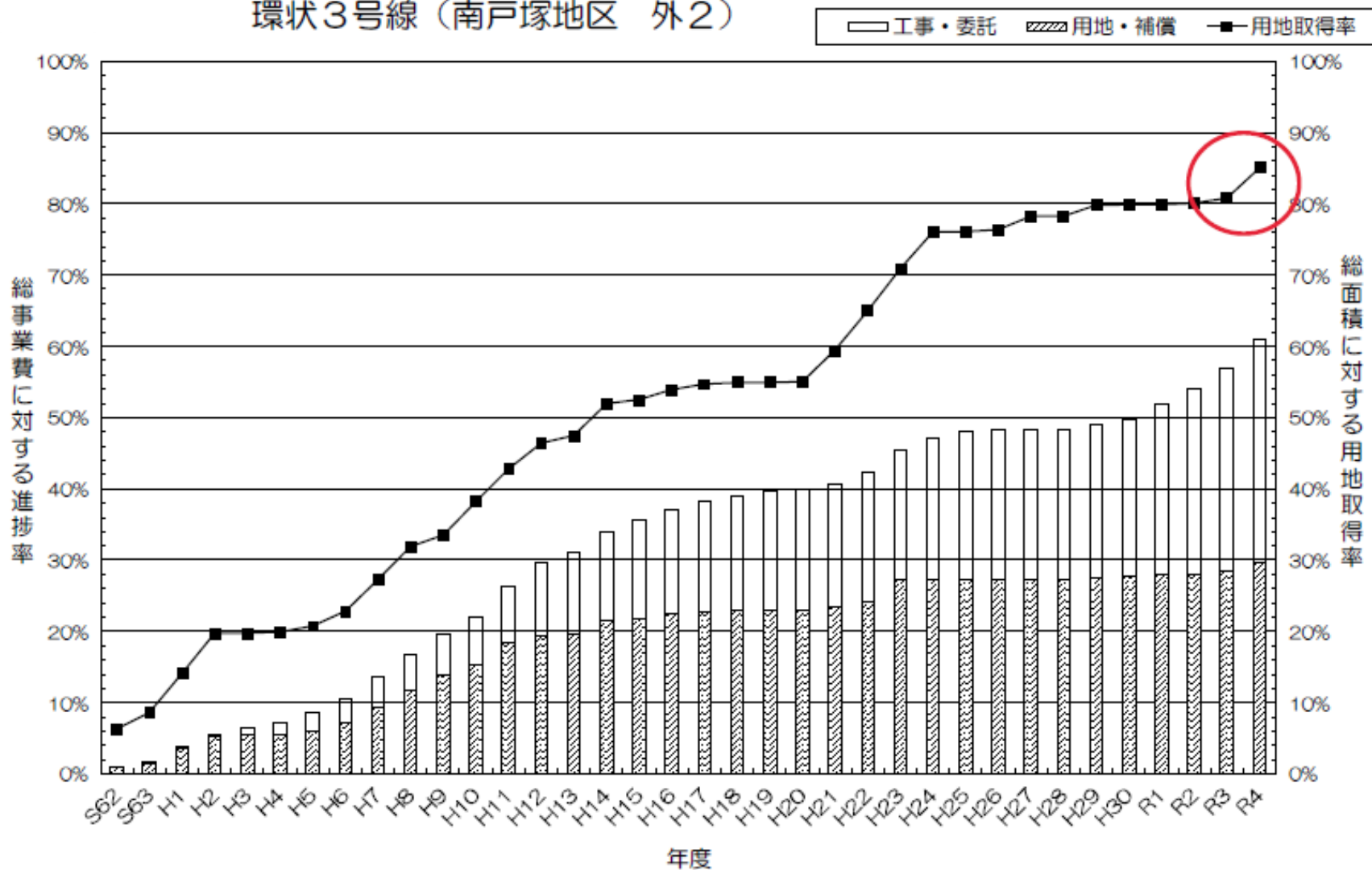
63%

用地取得率%

85%

供用等の状況

東側を供用済み



【事業をめぐる社会情勢等の変化】

令和4年3月に国道16号から国道1号下り線までが開通し、周辺に物流施設が新設されるなど一部整備効果が発揮されるとともに、国道1号上り線への接続を期待する声が上がっています。

【事業の必要性】

都市計画道路環状3号線は、本市の幹線道路網の骨格となる「3環状10放射道路」の一つに位置付けられており、道路ネットワークの充実による交通利便性の向上、災害時の緊急輸送路の機能強化、周辺住宅地域の安全性向上が期待されているほか、現在整備中の横浜環状南線の戸塚ICへのアクセス性向上にも寄与することから、整備の必要性が依然として高い状況です。

以上のことから、事業を継続して実施する必要があると判断しています。